

製品名: NIPP1 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab14710

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	PPP1R8
別名	PPP1R8; ARD1; NIPP1; Nuclear inhibitor of protein phosphatase 1; NIPP-1; Protein phosphatase 1 regulatory inhibitor subunit 8
遺伝子 ID	5511.0
SwissProt ID	Q12972
免疫原	抗血清はヒト PPP1R8 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 196-245

背景

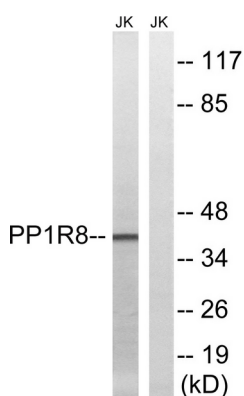
この遺伝子は、選択的スプライシングによって3つの異なるアイソフォームをコードします。この遺伝子によってコードされるタン

パク質アイソフォームのうち2つは、1型セリン/スレオニンタンパク質ホスファターゼの特異的阻害剤であり、RNAに結合することはできますが、切断はできません。3つ目のタンパク質アイソフォームはホスファターゼ阻害機能を欠いていますが、大腸菌のRNase Eに匹敵する一本鎖エンドリボヌクレアーゼです。このアイソフォームは機能するためにマグネシウムを必要とし、RNAのA+Uに富む領域の特定の部位を切断します。[RefSeq提供、2008年7月],補因子: マグネシウム。エンドリボヌクレアーゼの機能はマグネシウムに依存します。、ドメイン: 塩基性N末端ドメインとC末端ドメイン、および酸性中央ドメインを有します。、機能: 主要核タンパク質ホスファターゼ-1 (PP-1) の阻害サブユニット。RNA結合活性を有するがRNAを切断せず、PP-1をRNA関連基質に標的化する可能性がある。また、pre-mRNAスプライシングにも関与している可能性がある。DNAに結合し、転写抑制因子として作用する可能性がある。細胞増殖に必要と思われる。、機能: アイソフォームガンマは、部位特異的な一本鎖エンドリボヌクレアーゼであり、一本鎖RNAの3'末端からA+Uリッチ領域のプリンおよびピリミジンを切断する。切断部位に5'-リン酸末端を生成する。このアイソフォームはPP-1を阻害しない。mRNAスプライシングに関与している可能性がある。、その他: 合成ペプチドNIPP-1(330-351)はPP-1を阻害することができる。Tyr-335のリン酸化はPP-1阻害を低下させるが、Thr-346またはSer-348のリン酸化は効果がない。、PTM:Ser-199またはSer-204のリン酸化によって不活性化される可能性がある(類似性による)。in vitroではLynによってTyr-264がリン酸化され、RNA存在下ではTyr-335もリン酸化される。類似性:1つのFHAドメインを含む。細胞内局在:主に細胞質に存在。細胞内局在:主に核内に存在するが、核内に限定されない。、サブユニット:リン酸化CDC5L、SF3B1、およびMELKと相互作用する。核酸刺激によってEEDと相互作用する。PPP1R8、EED、HDAC2、およびPP-1からなる複合体の一部。スプライソソームの一部。組織特異性: 普遍的に発現しており、心臓と骨格筋で最も多く、次いで脳、胎盤、肺、肝臓、脾臓と続く。腎臓ではそれほど多くない。アイソフォーム間の濃度と比率は細胞種に依存する。アイソフォーム α (>90%)とアイソフォーム β は脳、心臓、腎臓で検出された。アイソフォーム γ は主にB細胞とTリンパ球に存在し、293個の胎児腎細胞で検出された。、

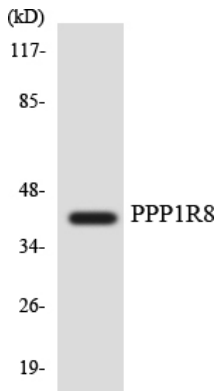
研究分野

シグナル伝達

画像データ



PPP1R8抗体を用いたJurkat細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



PPP1R8 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解物のウエスタンブロット分析。